# 太閤山温泉遺跡発掘調査報告

## ― 公衆浴場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 ―

2007年2月

富山県射水市教育委員会

# 太閤山温泉遺跡発掘調査報告

― 公衆浴場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 ―

2007年 2 月

富山県射水市教育委員会

# 序

射水市の形状は東西10.9km、南北16.6km、面積は109.18km$^2$からなり、海抜０mの富山湾から最も標高の高い140.2mの射水丘陵までがコンパクトに収まっています。

奈良時代に大伴家持が越中国守として赴任し、その間に射水の自然や風物を詠んだ歌が『万葉集』にいくつもあります。1200年以上前より風光明媚で海の幸、山の幸に恵まれた良好な土地であったことが窺えます。

また、市内には約460箇所もの埋蔵文化財包蔵地が散在し、県内屈指の埋蔵文化財の宝庫となっています。今回調査した太閤山温泉遺跡は、以前はうっそうとした丘陵の中にありましたが、市街化が進みすっかり変貌してしまいました。この度、さらなる開発が行われることになり、これに先立ち調査した結果、旧石器時代の石器や弥生時代の土器などが出土しました。2万数千年前の人が歩き、弥生時代の人々が暮らしたであろう土地で現代人が憩う姿を想像しますと、連綿たる土地と人とのつながり、人と人が共生し地域社会が築いてきた長い歴史、その上に今まさに新たな文化を創造しようとする人と社会の姿に、あらためて文化の力を見る思いがいたします。

今回の調査の成果をまとめた本書が、今後とも当地域一帯の研究を進めるうえで参考になればありがたく、また埋蔵文化財のご理解に役だてて頂ければ幸いに存じます。

終わりに、この調査にご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成19年２月

射水市教育委員会
教育長　竹内　伸一

# 例　言

1．本書は富山県射水市黒河地内に所在する太閤山温泉遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は㈲桜町商事の依頼を受け、射水市教育委員会の指導のもと、㈱エイ・テックが行った。

3．調査担当者・調査期間・面積は次のとおりである。

〔試 掘 調 査〕　担 当 者　射水市教育委員会主査　原田義範　㈱アーキジオ調査員　新宅輝久

調査期間　平成17年12月16日～12月27日（延べ7日間）　　調査面積　66.4m²

〔本発掘調査〕　担 当 者　㈱エイ・テック　後藤浩之

調査期間　平成18年8月21日～9月28日　（延べ24日間）　　調査面積　1,160m²

4．本書の編集・執筆は、稲垣尚美（射水市教育委員会）、後藤浩之・澤田雅志（エイ・テック）が行った。なお、文責は文末に記した。

5．発掘調査及び報告書作成にあたり次の方々の協力と指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

太閤山温泉・山内基樹

6．本遺跡の出土遺物、図面や写真等の調査記録は射水市教育委員会が保管している。なお、出土した遺物にはTOの略号を記入した。

7．発掘調査及び整理作業の従事者は次のとおりである。（五十音順）

〔現地調査〕　石黒久仁子・石坂なみ子・木原そとえ・酒井　稔・佐々木一男・鈴木とし子・高橋八智子

道谷茂雄・長谷川つじ・林えみ子・三上正夫（以上射水市シルバー人材センター）

杉田美沙都・野上純子・小澤　史

〔整理作業〕　上田恵子・原田知佳子・三島幸代・渡辺悦子

# 凡　例

1．本書に掲載の遺構図の方位は座標北、水平基準は海抜高である。

2．調査区の座標（世界測地系）は次のとおりである。　X0 Y0＝X79120 Y－6500

3．遺構の略号は次のとおりである。　SD：溝　　SK：土坑　　SP：柱穴及び柱穴状ピット　　SX：不明遺構

4．遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、縮尺の異なる遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。

5．遺構図・実測図中の表現は以下のとおりである。

赤彩　　スス　　須恵器・珠洲の断面

6．色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』の表記を用いた。

# 目　次

第１章　遺跡の位置と環境……1
第２章　調査に至る経緯……2
第３章　調査の方法と成果……2
　第１節　調査の方法……2
　第２節　基本層序……3
　第３節　遺構……3
　第４節　遺物……9
第４章　まとめ……13
〈引用・参考文献〉

# 挿図目次

第１図　周辺の遺跡……1
第２図　調査区位置図……2
第３図　調査区全体図……5
第４図　遺構図……5
第５図　遺構図……7
第６図　SK30土器出土状況図 ……8
第７図　出土遺物実測図……10
第８図　出土遺物実測図……11
第９図　その他の出土遺物……12

# 表 目 次

第１表　遺構観察表……4
第２表　出土土器観察表……14
第３表　その他の遺物観察表……14

# 図版目次

図版１　調査区遠景……15
図版２　調査区全景……16
図版３　調査区遺構・遺物……17
図版４　出土遺物……18
図版５　出土遺物……19

# 第１章　遺跡の位置と環境

太閤山温泉遺跡は富山県射水市（旧小杉町　平成17年11月1日合併）黒河地内に所在する。射水市は富山県のほぼ中央に位置し、北に射水平野が広がり、南には起伏にとむ射水丘陵が高津峰山へと連なる。本遺跡は丘陵の北端に立地し、標高は14～15mを測る。

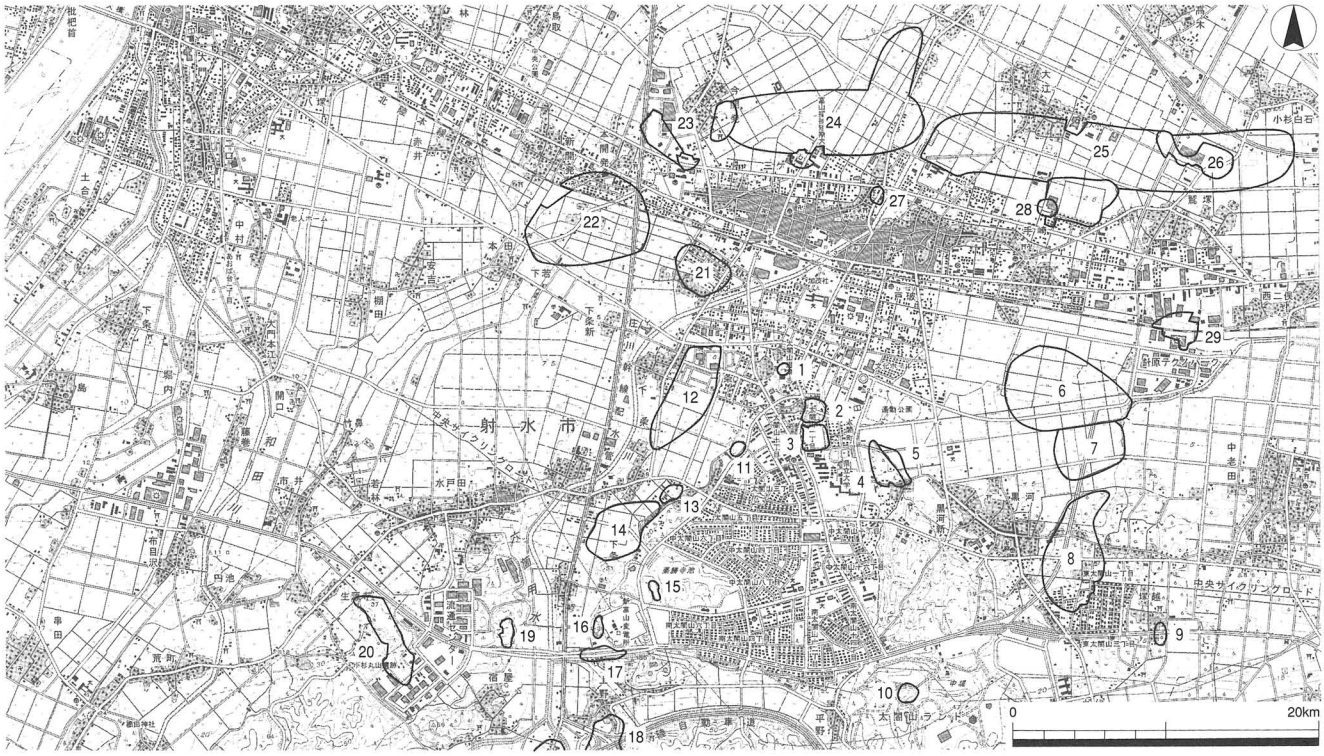
射水平野は神通川と庄川に挟まれた沖積平野である。縄文海進時には現在の海抜５m位まで海であったとされており、射水市の大半は海に没していたことになる。海退後、庄川や下条川などが運搬した土砂によって堆積し形成されたのが現在の射水平野であり、海岸線一帯に埋積されずに残ったのが放生津潟（現富山新港）である。

射水丘陵は新世代第３紀の泥岩・砂岩層によって構成され、下条川・和田川とそれらの支流が樹枝状に入り組み起伏にとんだ地形を呈する。

本遺跡周辺の平野部や丘陵部には沢山の遺跡が存在している。新造池A遺跡・中山中遺跡・南太閤山Ⅰ遺跡・上野遺跡など旧石器から縄文時代中期まで多くの遺跡は丘陵上に分布しており、中期以降は海退に伴い小杉伊勢領遺跡や針原西遺跡が平野部にみられるようになる。弥生時代から古墳時代に入ると平野部にHS－04遺跡・戸破若宮遺跡、丘陵部には中山南遺跡・北野遺跡などの集落遺跡がみられる。囲山遺跡と南太閤山Ⅰ遺跡では方形周溝墓が確認されているほか、一ツ山古墳群・二ツ山古墳群・変電所西古墳・五歩一古墳といった多くの古墳も存在している。

古代以降、丘陵部には小杉流通業務団地内遺跡群・太閤山ランド内遺跡群などの生産遺跡が多くみられ、平野部では在地領主層による国衙領支配が展開される一方で、荘園形成が進み京都下鴨神社領倉垣荘が運営されることになる。

（後藤）




１太閤山温泉遺跡　２中山中遺跡　３中山南遺跡　４三谷遺跡　５一ツ山古墳群　６針原西遺跡　７黒河・中老田遺跡　８黒河尺目遺跡　９塚越Ａ遺跡
10 新造池Ａ遺跡　11 囲山遺跡　12 赤田Ⅰ遺跡　13 二の井Ⅱ遺跡　14 日の宮遺跡　15 薬勝寺池南西遺跡　16 変電所西古墳　17 南太閤山Ⅰ遺跡　18 上野遺跡
19 五歩一古墳　20 小杉丸山遺跡　21 小杉伊勢領遺跡　22 水上・本開発遺跡　23 三ヶ・本開発遺跡　24 愛宕遺跡　25 HS－04遺跡　26 白石遺跡　27 高寺遺跡
28 戸破若宮遺跡　29 針原東遺跡

第１図　周辺の遺跡（１：50,000）

# 第２章　調査に至る経緯

1954年、対象地に民間公衆浴場が開業し、現在までいくたびかの改修を重ね営業してきたが、今回大規模な造成を伴う再開発が行われることになった。民間公衆浴場業者より対象地が太閤山温泉遺跡包蔵地内に位置することから、市教委へ開発に伴う取扱いの相談があった。市教委では、過去に掘削が行われていない自然地形が遺存すると推察される丘陵頂部の緩斜面で、平成17年12月に試掘調査を行った。

調査の結果、縄文時代前期と弥生時代終末から古墳時代前期の土器片が出土したほか、土坑と溝を検出した。以上の結果を踏まえ、丘陵頂部の既存施設部分を除いた約1,500m²で本発掘調査による記録保存が必要であると判断した。

（稲垣）

第２図　調査区位置図（1：2,500）

# 第３章　調査の方法と成果

## 第１節　調査の方法

本発掘調査は平成18年8月21日～9月28日までの期間内で24日間行った。調査対象面積は1,160m²であった。8月21日からバックホウで表土掘削を行い、10m間隔でグリッド杭を設置した。南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、原点を調査区南東端に設定した。調査区東側から遺構検出作業を開始し、順次番号をつけ概略図を作成した。遺物の取り上げは２×２ｍのグリッドで行った。また、調査区北側にサブトレンチを設定しバックホウで掘削を行い、旧地形の確認を行った。遺構検出終了後、写真撮影をし、遺構ごとにセクションベルトを設定して掘削を開始した。調査区南西側の客土部分は断割りを２本入れ堆積状況の確認を行い、１ｍ以上ある場所についてはバックホウで掘削を行った。遺物がまとまって出土した遺構は出土状況図を作成し、写真撮影を行った。掘削がすべて終了した後、9月26日にラジコンヘリで航空測量を行い、調査区の北側壁の層位図を作成した。9月28日に完了検査を行い調査を終了した。

## 第２節　基本層序

調査区のほとんどが削平をうけており、特に東側は温泉施設建設に伴い地山も削平されていた。第Ⅰ層は厚いところでも0.2m確認できるだけで、調査区東側では0.1m程度しかみられない。第Ⅱ層と第Ⅲ層は調査区南西の落ち込み部分のみで確認され、第Ⅱ層は客土で深いところでは1.8m盛られていた。第Ⅲ層は弥生時代後期から古代の遺物包含層である。第Ⅳ層は遺構検出面となる。

| | | |
|---|---|---|
| 第Ⅰ層 | 暗赤褐色土（5YR3/2） | 表土 |
| 第Ⅱ層 | 黒褐色土（2.5Y3/2） | 客土　調査区南西部のみで確認 |
| 第Ⅲ層 | 黒色土（2.5Y2/1） | 遺物包含層　調査区南西部のみで確認 |
| 第Ⅳ層 | 明黄褐色土（2.5Y6/8） | 地山　遺構検出面 |

## 第３節　遺構

今回の調査では溝５条、土坑23基、柱穴状ピット４基を検出した。ほとんどの遺構が遺物を伴わず、属する時期も性格も不明なものが多い。

SD07　調査区東側を南北に走る溝である。調査区内で確認できる長さは9.9m、幅0.4m、深さ0.5～0.7m、断面は方形である。深さは北へ行くに従い深くなり、調査区外へと続く。溝の南側は噴水の下へ続くとみられるが、溝の続きが確認できないことから噴水の下に南端があるものと考えられる。遺物が出土しなかったため属する時期は不明である。

SD11　調査区北側で検出した南北に走る溝である。溝の北は調査区外へと続いて行くが、南へ行くに従い浅くなり南端は調査区内に収まる。長さ15.7m、幅0.3～3.3m、深さ0.3～0.6m、断面は逆台形である。北側には大きなテラス状の張り出しがつく。遺物は弥生土器、珠洲、土師器皿、磨製石斧が出土した。覆土から主に珠洲の破片が出土しており、溝の属する時期は13～14世紀と考えられる。北側の底面にはSK15・26・28と同様に底面が平らな土坑があり、直線状に並ぶことからも４基の土坑は何らかの関連があるものと考えられる。この溝の底面で検出された土坑はSD11に切られていることからこれよりも古い時期に属するものと考えられる。

SK02　調査区東側で検出した土坑である。長さ2.4m、幅0.9m、深さ0.3m、平面と断面はともに方形である。黒褐色土層から石刃が１点出土したが混入と考えられる。属する時期は不明である。

SK15　SD11の脇で検出した土坑で、径0.7m、深さ0.7m、平面は円形である。遺物が出土しなかったため属する時期は不明である。

SK17　SD11に付属する土坑で、長さ3.3m、幅1.7m、深さ0.2mである。須恵器の破片が１点出土したが、SD11と同時に埋っていたことから同時期に属し、SD11の張り出しと考えられる。

SK26　調査区北西で検出した土坑である。長さ1.0m、幅0.7m、深さ1.0m、平面は楕円形で断面は方形である。遺物が出土しなかったため属する時期は不明である。

SK27　調査区西側で検出した土坑である。長さ1.8m、幅0.6m、深さ0.4m、平面は長方形である。土器片が出土したが混入の可能性が高いと考えられる。

SK28　調査区西側で検出した土坑である。長さ0.9m、幅0.8m、深さ0.7m、平面はほぼ円形で断面は方形である。遺物が出土しなかったため属する時期は不明である。

SK30　調査区西側の落ち込みとの境で検出した土坑である。遺構の西側は削平されてしまったのか確認できなかったため正確な規模は不明であるが、長さ2.8m、幅1.3m、深さ0.3m、平面は長方形である。弥生時代後期の土器がまと

まって出土しており、多くは赤彩が施されている。属する時期は弥生時代後期と考えられる。

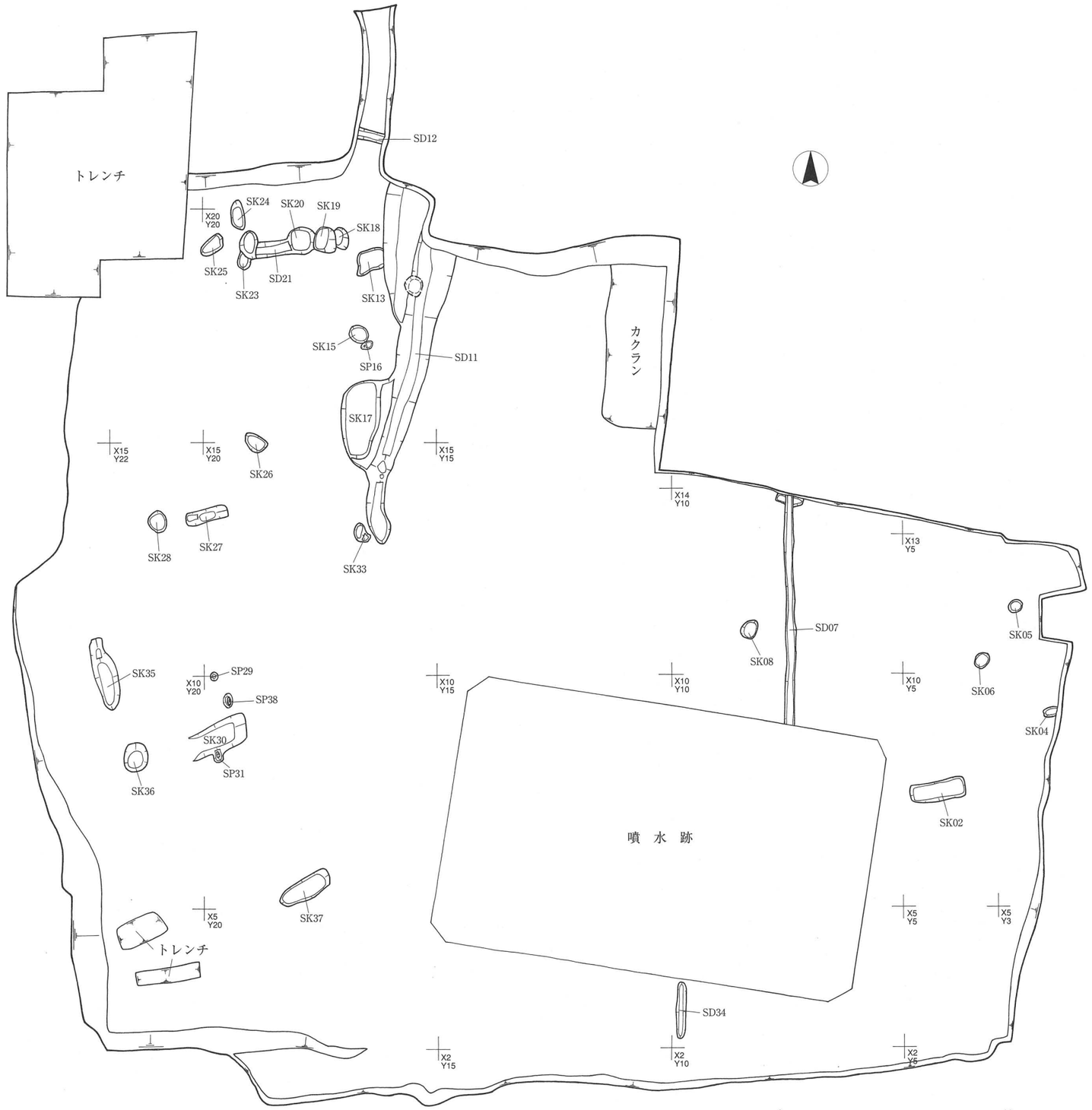
SK35　調査区西側の落ち込みとの境で検出した土坑である。長さ3.2m、幅1.0m、深さ0.6m、平面は楕円形である。遺物は弥生時代後期の長頸壺が１点完形に近い状態で出土した。属する時期は弥生時代後期と考えられる。

SK36　調査区西側の落ち込み部分で検出した土坑である。長さ1.3m、幅1.0m、深さ0.2m、平面は円形である。直上から長胴甕と弥生土器の破片が出土したが、遺構からは出土しなかった。属する時期は不明である。

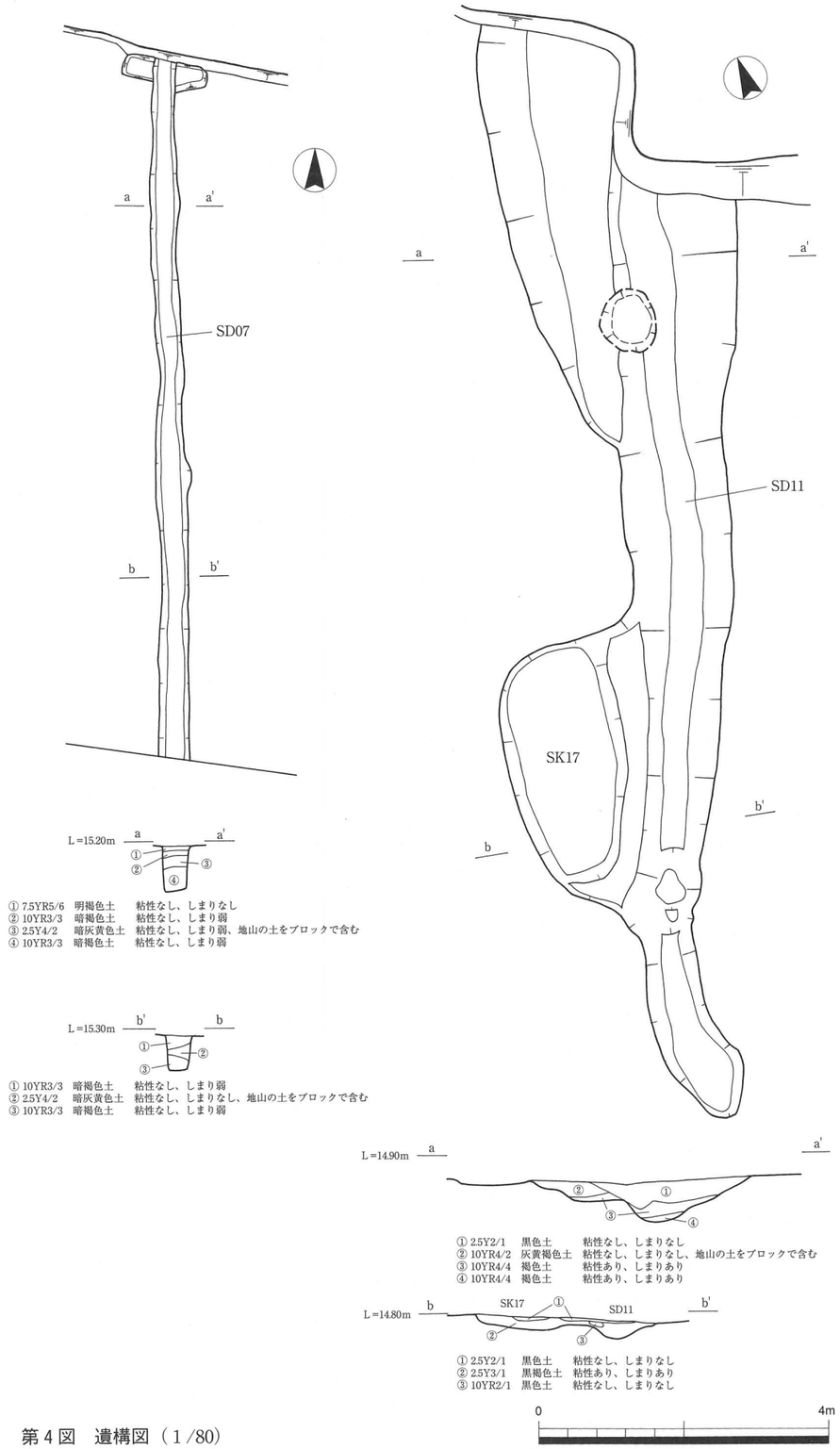
SK37　調査区南西側の落ち込みとの境で検出した土坑である。長さ2.8m、幅0.9m、深さ0.2m、平面は楕円形である。弥生時代後期の土器が出土した。属する時期は弥生時代後期と考えられる。

| 遺構番号 | 規模（m） | | | 平面形 | 断面形 | 時期 | 出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長さ | 幅 | 深さ | | | | |
| SK02 | 2.4 | 0.9 | 0.3 | 方形 | 方形 | 不明 | 石刃 |
| SK04 | 0.6 | 0.4 | 0.1 | | レンズ状 | 不明 | なし |
| SK05 | 0.6 | 0.6 | 0.2 | 円形 | U字状 | 不明 | なし |
| SK06 | 0.7 | 0.7 | 0.1 | 円形 | 逆台形 | 不明 | なし |
| SD07 | 9.9 | 0.4 | 0.5～0.7 | | 方形 | 不明 | なし |
| SK08 | 0.9 | 0.7 | 0.1 | 円形 | レンズ状 | 不明 | なし |
| SD11 | 15.7 | 0.3～3.3 | 0.3～0.6 | | V字状 | 13～14C？ | 弥生土器・珠洲・磨製石斧 |
| SD12 | 1.2 | 0.5 | 0.4 | | 方形 | 不明 | なし |
| SK13 | 1.6 | 1.1 | 0.1 | 不整形 | レンズ状 | 不明 | なし |
| SK15 | 0.7 | 0.7 | 0.7 | 円形 | 方形 | 不明 | なし |
| SP16 | 0.5 | 0.3 | 0.1 | 方形 | 方形 | 不明 | なし |
| SK17 | 3.3 | 1.7 | 0.2 | 不整形 | レンズ状 | 13～14C？ | 須恵器・珠洲？ |
| SK18 | 0.9 | 0.6 | 0.2 | 楕円形 | 不整形 | 不明 | なし |
| SK19 | 1.2 | 1.1 | 0.5 | 円形 | 不整形 | 不明 | なし |
| SK20 | 1.3 | 1.2 | 0.3 | 円形 | 不整形 | 不明 | なし |
| SD21 | 1.5 | 0.7 | 0.4 | | 逆台形 | 不明 | なし |
| SK22 | 1.2 | 0.8 | 0.3 | 楕円形 | レンズ状 | 不明 | なし |
| SK23 | 0.7 | 0.6 | 0.1 | 円形 | レンズ状 | 不明 | なし |
| SK24 | 1.3 | 0.6 | 0.2 | 楕円形 | 逆台形 | 不明 | なし |
| SK25 | 1.2 | 0.7 | 0.3 | 楕円形 | レンズ状 | 不明 | なし |
| SK26 | 1.0 | 0.7 | 1.0 | 楕円形 | 不整形 | 不明 | なし |
| SK27 | 1.8 | 0.6 | 0.4 | 方形 | 方形 | 不明 | 弥生土器 |
| SK28 | 0.9 | 0.8 | 0.7 | 円形 | 方形 | 不明 | なし |
| SP29 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | 円形 | 逆台形 | 不明 | なし |
| SK30 | 2.8 | 1.3 | 0.3 | 方形 | U字状 | 弥生時代後期 | 弥生土器 |
| SP31 | 0.6 | 0.4 | 0.2 | 方形 | 逆台形 | 不明 | なし |
| SK33 | 0.9 | 0.6 | 0.1 | 不整形 | V字状 | 不明 | なし |
| SD34 | 2.4 | 0.4 | 0.1 | | 逆台形 | 不明 | なし |
| SK35 | 3.2 | 1.0 | 0.6 | 楕円形 | U字状 | 弥生時代後期 | 弥生土器 |
| SK36 | 1.3 | 1.0 | 0.2 | 円形 | レンズ状 | 不明 | なし |
| SK37 | 2.8 | 0.9 | 0.2 | 楕円形 | 方形 | 弥生時代後期 | 弥生土器 |
| SP38 | 0.5 | 0.3 | 0.3 | 円形 | 不整形 | 不明 | なし |

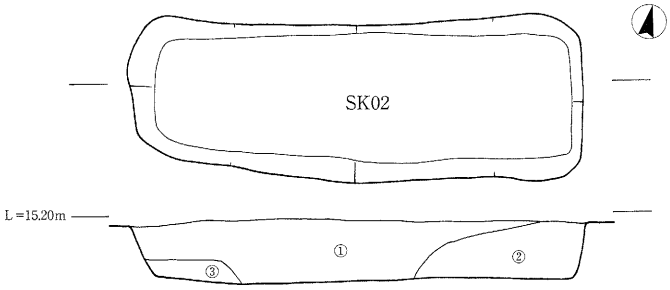
第１表　遺構観察表



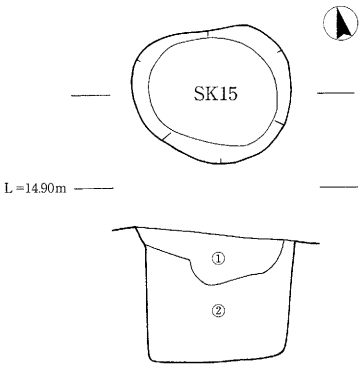

第３図　調査区全体図（１/200）



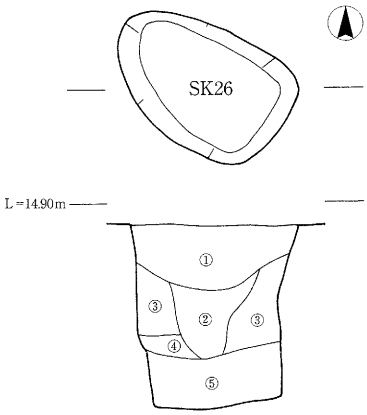

第４図　遺構図（１/80）



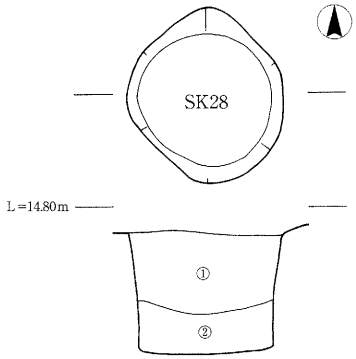

① 10YR3/2　黒褐色土　　粘性なし、しまりなし
② 10YR4/2　灰黄褐色土　粘性なし、しまりなし、地山の土をブロックで含む
③ 10YR4/2　灰黄褐色土　粘性なし、しまりなし



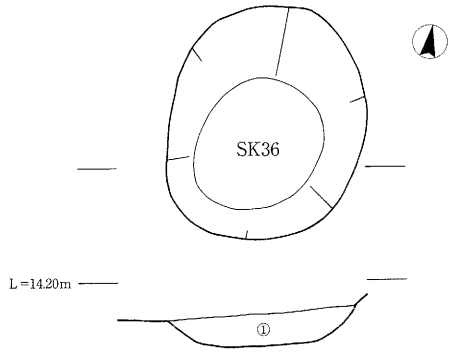

① 2.5Y2/1　黒色土　粘性なし、しまりなし、地山の土をブロックで少量含む
② 2.5Y2/1　黒色土　粘性弱、しまりなし、①より多く地山を含む



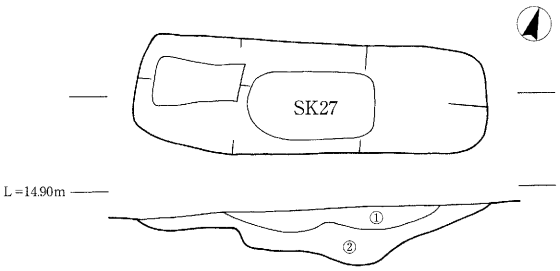

① 10YR3/1　黒褐色土　　粘性なし、しまりなし
② 10YR3/1　黒褐色土　　粘性弱、しまりなし
③ 10YR4/1　褐灰色土　　粘性あり、しまりなし、地山の土をブロックで含む
④ 2.5Y4/2　暗灰黄色土　粘性あり、しまり弱、③より多く地山を含む
⑤ 2.5Y5/2　暗灰黄色土　粘性あり、しまり弱



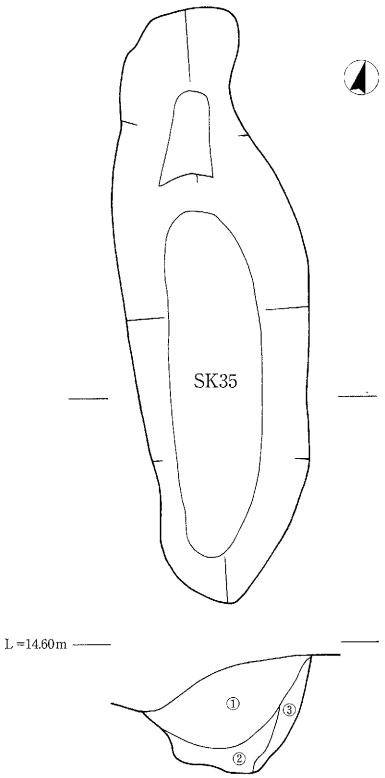

① 10YR3/1　黒褐色土　粘性弱、しまりなし、地山の土をブロックで含む
② 10YR3/1　黒褐色土　粘性弱、しまりなし、地山の土をブロックで多量含む



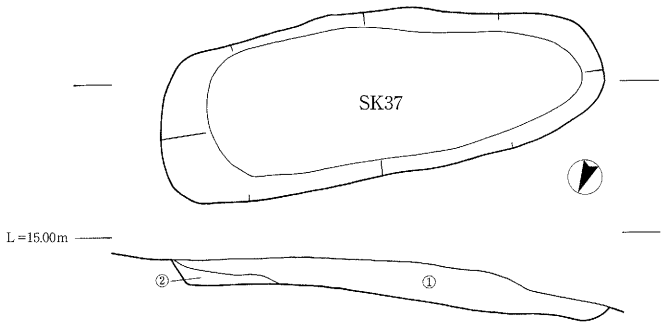

① 10YR3/1　黒褐色土　粘性なし、しまりなし
地山の土をブロックで少量含む、炭化物が混じる




① 2.5Y2/1　黒色土　　粘性なし、しまりなし、地山の土をブロックで含む
② 10YR3/4　暗褐色土　粘性弱、しまりなし、①より多く地山を含む

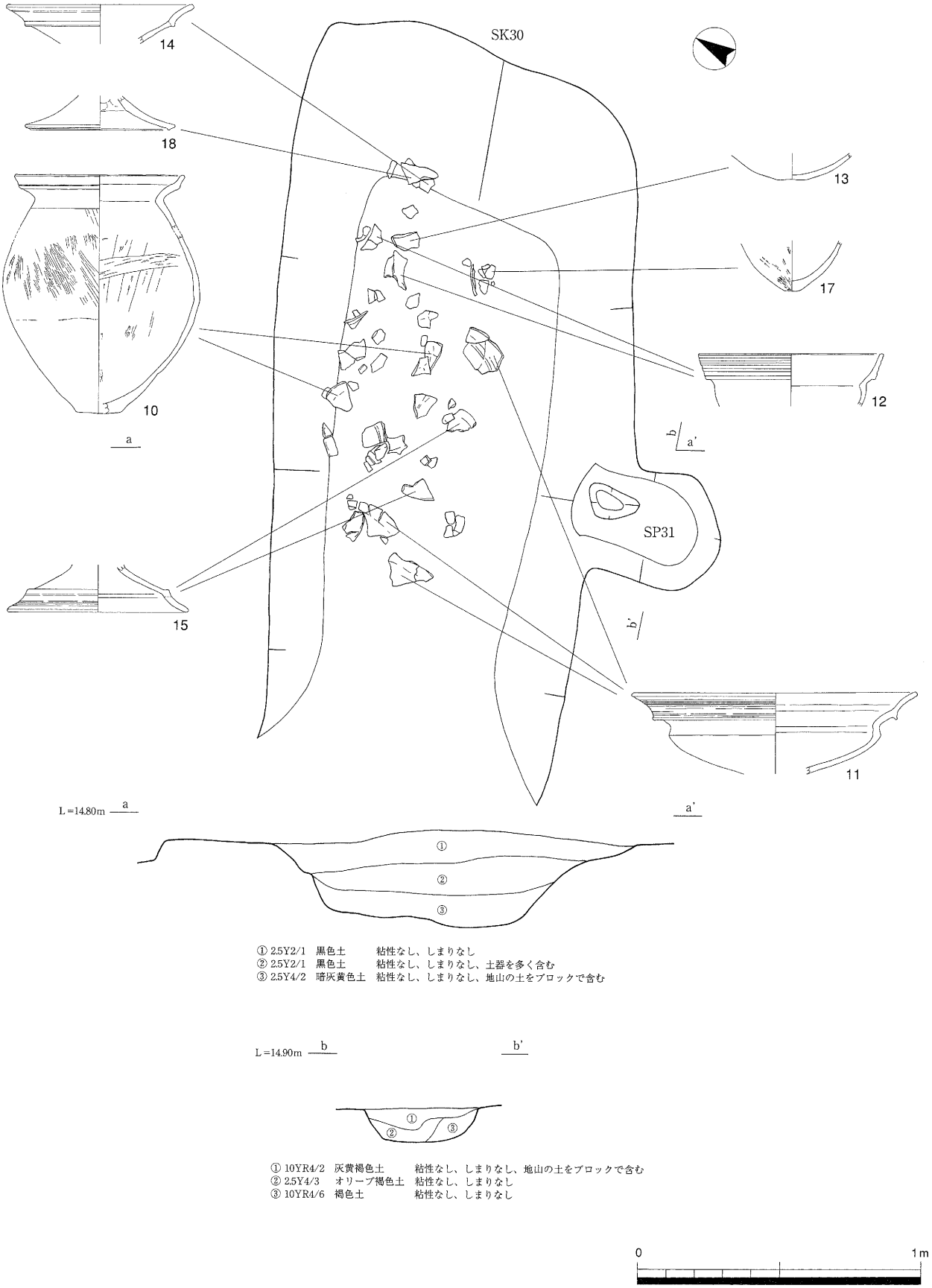



① 2.5Y2/1　黒色土　　粘性なし、しまりなし、地山の土をブロックで少量含む
② 2.5Y2/1　黒色土　　粘性なし、しまりなし、土器を含む
③ 10YR5/8　黄褐色土　粘性なし、しまりなし




① 10YR3/2　黒褐色土　　粘性なし、しまりなし
② 2.5Y6/4　にぶい黄色土　粘性なし、しまりなし、地山の土をブロックで含む

第５図　遺構図（１/40）

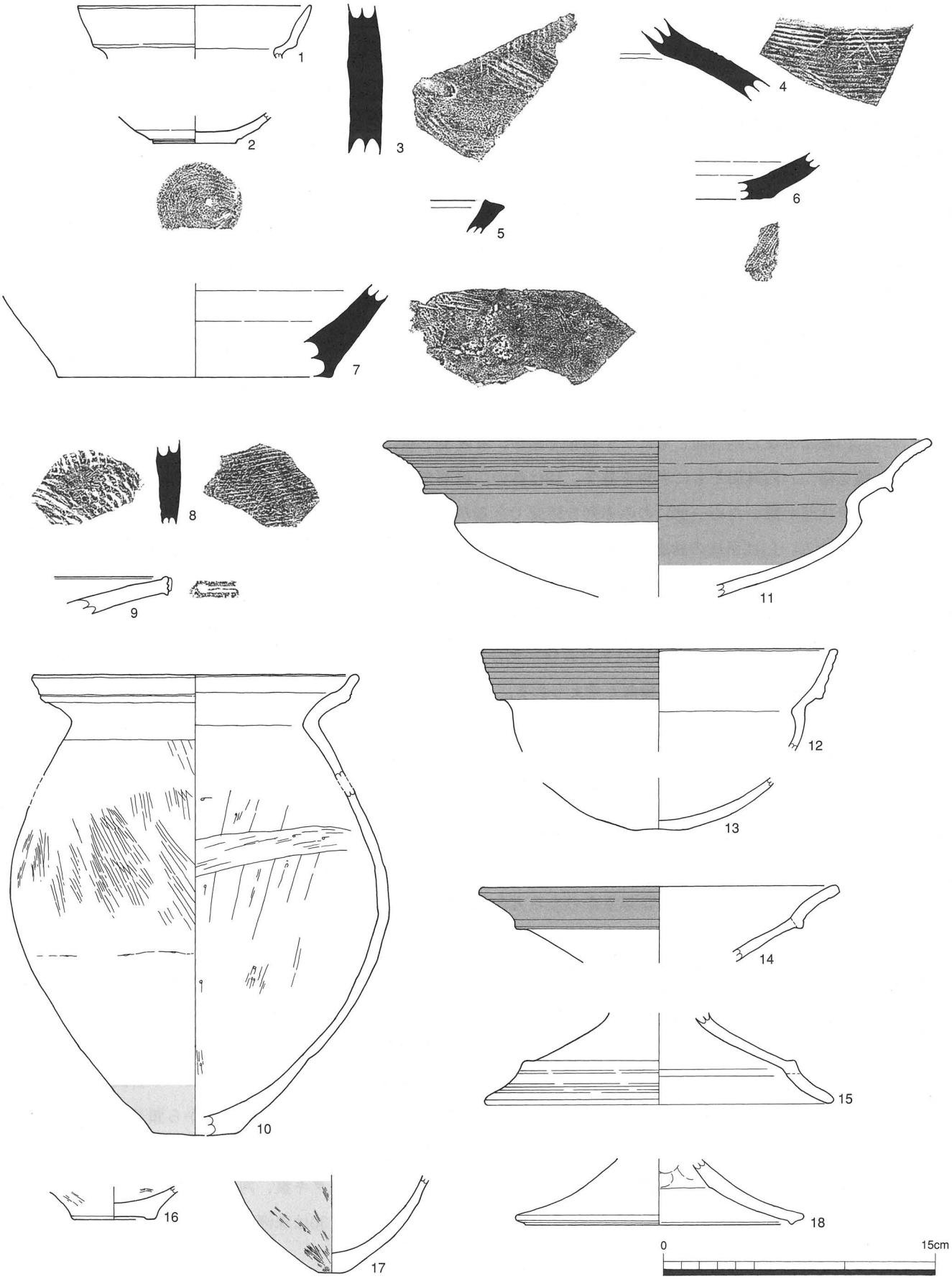



第６図　SK30土器出土状況図（１/20）

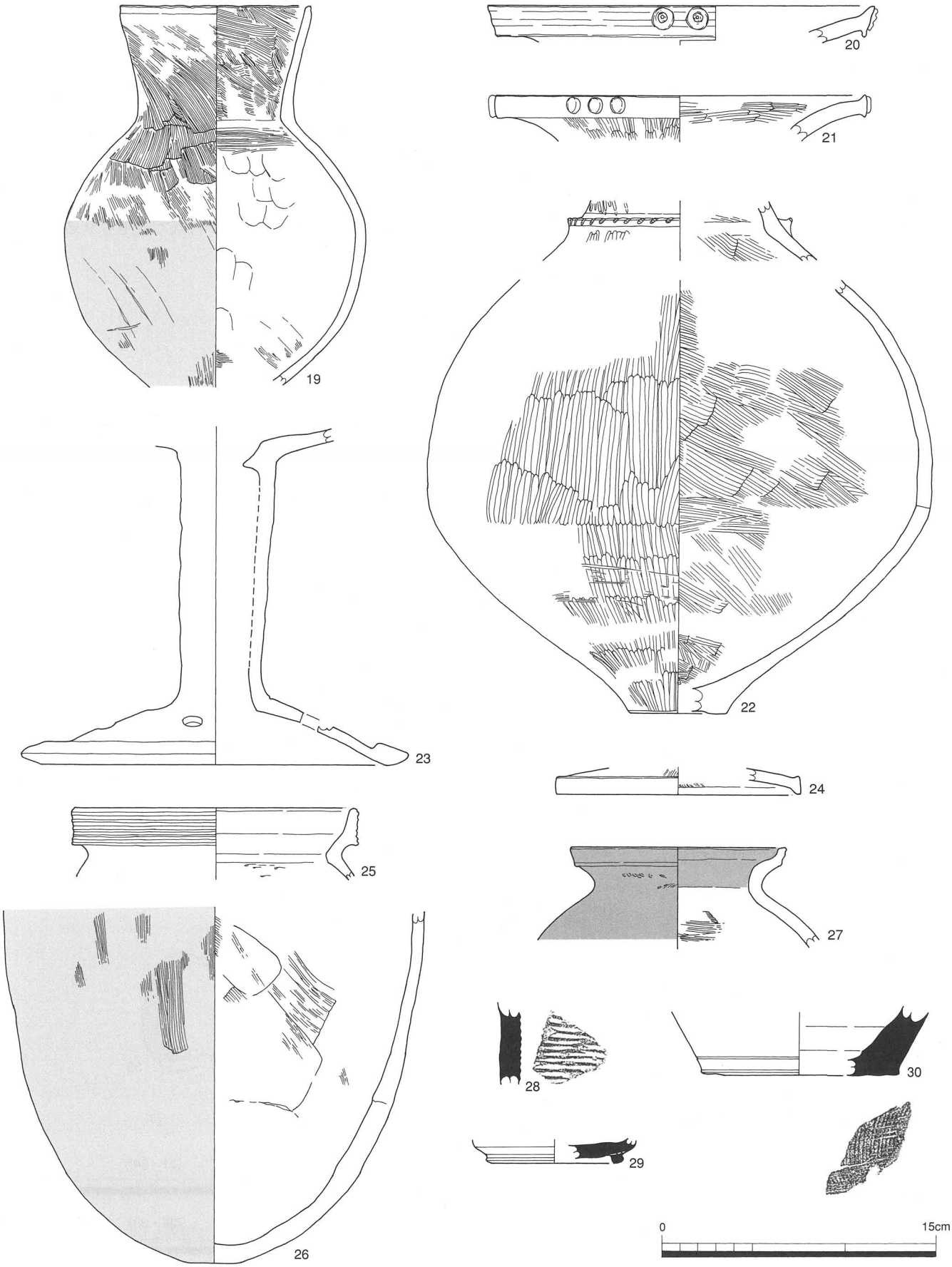
## 第4節　遺物

土器（第7・8図）

1は有段口縁の壺か甕である。口縁部は外傾し端部は尖縁である。摩滅が激しく内外面とも調整は不明である。2は土師器皿あるいは椀の底部。内外面ともにロクロナデが施され、底面には糸切り痕が残る。3～7は珠洲の破片である。3は甕の胴部で外面にはタタキ痕が残る。4は甕の肩部であり、外面には頸部直下から平行なタタキ痕が残り、頸部は内外面ともにロクロナデ調整が施されている。5は鉢の口縁部で、内外面ともにロクロナデ調整が施され、端部は外傾し平直である。6は甕あるいは鉢の底部である。内外面ともにロクロナデ調整が施され、底面には糸切り痕が残る。7は甕の底部で外面上端には平行なタタキ痕が残る。内外面ともにロクロナデ調整が施され、外面には一部自然釉がかかる。8は須恵器の甕である。外面はタタキが施され内面には当て具痕が残る。9は器台の口縁部と考えられる。内外面ともにミガキ調整が施される。口縁部外面には擬凹線文が施され、円形浮紋が貼り付けられていたと考えられる痕がある。10は甕である。口縁部は無文で内外面ともにナデ調整を施す。頸部から胴部にかけて外面はハケ目、内面はケズリ調整が施されている。外面底部にはススが付着している。11は大型の鉢あるいは高坏で口縁に段を持つ。口縁は外反し内外面ともにナデ調整を施す。有段部下端には、粘土の貼り付けによるものなのか、はっきりとした稜を持つ。内外面ともに赤彩を施す。12は鉢の口縁部である。有段の口縁部には擬凹線文が施され、やや外傾する。遺存状態が悪いため一部にのみ赤彩を確認できるが、外面全体に施されていたものと考えられる。13と同一個体と考えられる。13は平底の鉢底部、摩滅が激しく調整は不明。外面には赤彩が施されていたものと考えられるが、遺存状態が悪く確認できない。14は器台の坏部である。口縁は有段で外反する。外面は口縁部にナデ調整と赤彩が施されている。15は器台の脚裾部である。有段脚で外面はナデ調整が施され、脚裾上部には赤彩が施されている。16は甕か壺の底部である。内外面ともにハケ目調整が施されている。17は甕の底部である。外面はハケ目調整が施され、ススが付着している。18は蓋の口縁部と考えられる。端部はナデ調整を施し、内側を引き出して返し部分を作り出す。外面は摩滅が激しく調整は不明だが、内面は端部からナデ調整が施され、上半には指頭圧痕が残る。19は長頸壺で口縁部はやや外傾する。外面は口縁端部にナデ調整を施し、口縁部から胴部下半まで全面ハケ目調整を施す。内面も口縁部から肩部にかけてと底部にハケ目調整を施し、肩部から胴部にかけては指頭圧痕が残る。胴部下半にはススが付着している。20は壺の口縁部である。口縁端部にナデ調整を施し、円形浮文を貼り付けている。外面下半にはミガキ調整が施される。21は壺の口縁部である。外面は縦方向に、内面には横方向のミガキ調整を施す。端部はナデ調整を施し、3単位からなる浮文と2単位以上からなる大きさの異なる円形浮文を貼り付ける。22は壺の胴部である。球胴形を呈し、頸部に隆帯を貼り付け刻み目を施す。外面は縦方向のミガキ調整、内面にはハケ目調整を施す。21と同一個体と考えられる。23は高坏の脚である。脚部は棒状を呈し、4つの透かし穴を開ける。脚裾端部は折り返して肥厚している。摩滅が激しく調整は不明である。24は脚裾部である。端部はナデ調整を施し、外面はミガキ調整で内面はハケ目調整を施す。25は口縁に段を持つ有段口縁甕の口縁部であり、頸部から直立し擬凹線文を施す。頸部外面にはナデ調整、胴部内面は横方向にケズリ調整を施す。26は長胴甕の胴部である。内外面ともにハケ目調整を施す。外面にはススが付着する。胎土は粗く砂利を含む。27は受け口状の口縁を持つ甕である。口縁から頸部にかけて内外面ともにナデ調整を施し、胴部内面にはハケ目調整を施す。口縁端部は平直でやや内傾する。内面は頸部まで、外面は全面に赤彩を施す。28は珠洲の甕あるいは壺の胴部である。外面に平行なタタキ痕、内面には押圧痕を残す。29は須恵器の坏底部である。内外面ともにロクロナデを施し、高台を貼り付ける。30は珠洲の壺の底部である。外面はケズリ調整で、内面はナデ調整を施す。底部には糸切り痕が残る。（後藤）



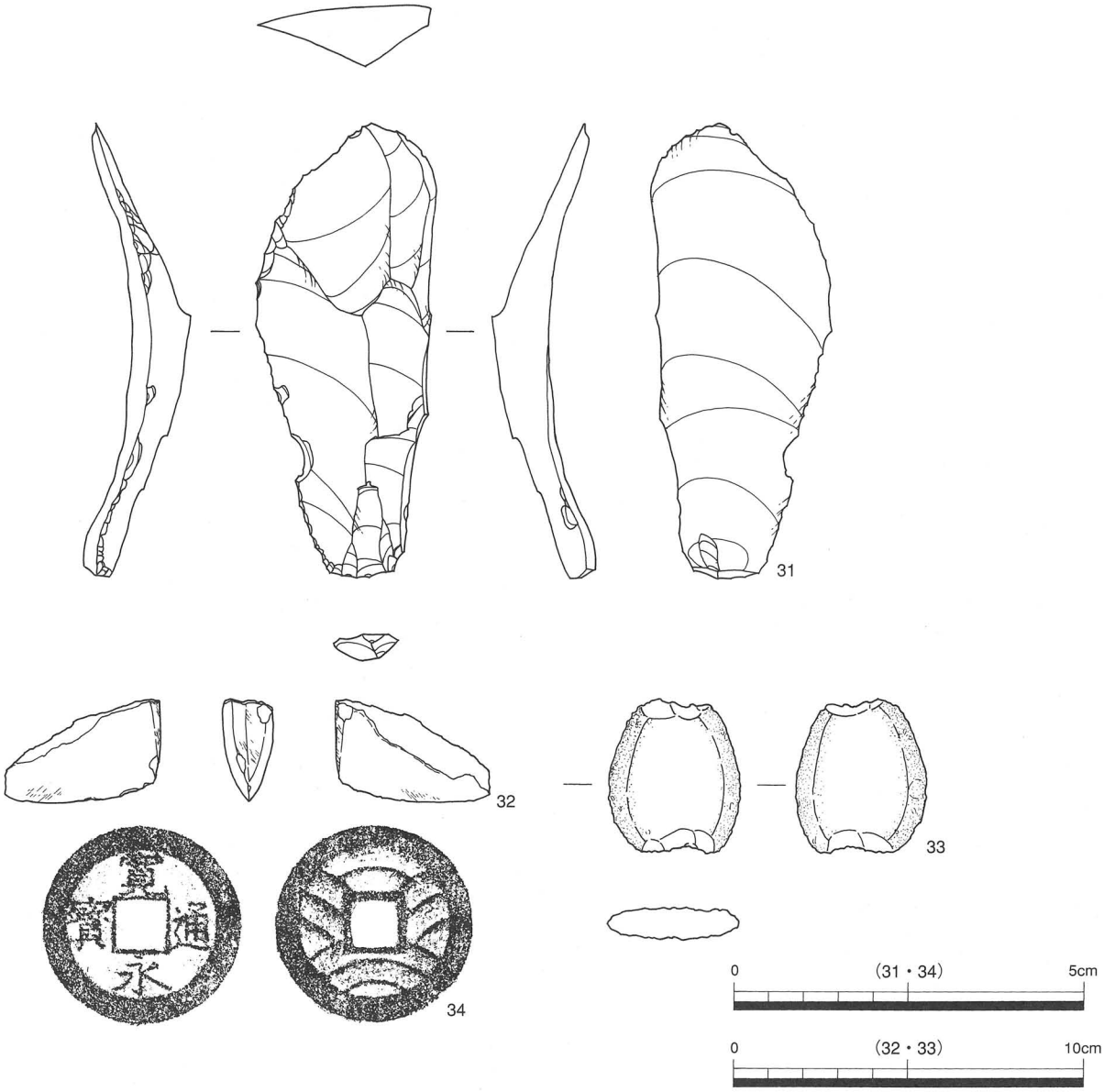

第７図　出土遺物実測図（１/３）　SD11（１～７）、SK17（８）、SK27（９）、SK30(10～18)




第８図　出土遺物実測図（１／３）　SK35(19)、SK37(20～24)、包含層・客土(25～30)

その他の遺物（第９図）

31はSK02出土の縦長剥片である。長さ6.55cm、幅2.45cm、厚さ0.8cm、石材は珪質頁岩である。左側縁に二次加工と考えられる剥離痕がある。基部の左側縁にも剥離痕がみられ、調整を行ったものと考えられる。32はSD11の底から出土した磨製石斧の刃部で長さ2.2cm、幅4.35cm、石材はおそらく蛇紋岩と考えられる。風化が進み石斧表面の擦痕も不明瞭である。33は客土から出土した石錘である。長さ4.1cm、幅3.75cm、厚さ0.85cm、重量24.8ｇ、表面は風化が進んでいる。礫の両端を打ち欠いただけの礫石錘と呼ばれるもので縄文時代全般を通じて存在している。34は包含層出土の銅銭である。全体が黒く変色していてやや湾曲しているが、銭文は寛永通宝としっかり判読でき遺存状態は良い。今回出土のものは四文銭であり、背面は11波の青海波である。（澤田）




第９図　その他の出土遺物　SK02(31)、SD11(32)、包含層・客土(33・34)

# 第４章　まとめ

今回の調査では、昭和30年代の温泉施設建設に伴うものと考えられる削平の影響から、遺構と遺物の出土量ともに乏しい調査であったが、調査で判明したことについて記しておく。

弥生時代後期から終末期

調査では、弥生時代後期から終末期に属すると考えられる遺構は土坑３基であった。そのうちSK30とSK37は遺構の上部が削平されていると考えられるため全容は不明であるが、赤彩が施された土器が出土していることから祭祀関連の遺構であると考えられる。土器は有段口縁を持つ甕（第７図10）や鉢（第７図12・13）、器台（第７図14・15）、高坏（第８図23）など法仏式期にあたるものが主体となっている。SK35からも法仏式期のものと考えられる壺（第８図19）が土坑内に置かれたような状態で出土した。この壺はほぼ完形で検出したにもかかわらず底部が欠けており、土坑内からも底部片と考えられるものは見つからなかった。このことから意図的に底部を打ち欠いたものと考えられる。SK37も祭祀に関連するものの可能性がある。また、南太閤山墳墓群で見られるような大型の鉢（第７図11）、壺（第８図22）も出土していることから平野部にある遺跡の墓域であった可能性も考えられる。

中世

この時期にあたる遺構は溝１本のみであり、調査区内で検出した部分だけでは全容は不明である。出土した珠洲の破片から13世紀から14世紀にあたるものと考えられる。

以上のように今回の調査では、弥生時代後期から終末期が主体となっていることがわかったが、調査区内の大部分が後世の削平をうけており遺跡の全容は判明しなかった。しかし、祭祀に関連すると考えられる赤彩を施した土器が出土したことから、周辺の丘陵部に分布する囲山遺跡や南太閤山Ⅰ遺跡と同様に墓域であった可能性が窺えた。今後、周辺遺跡の調査によって平野部と丘陵部の遺跡の関係が判明することを期待したい。（後藤）

〈引用・参考文献〉


石川県埋蔵文化財センター　1986　『漆町遺跡Ⅰ』

射水市教育委員会　2006　『赤田Ⅰ遺跡発掘調査概要(2)　－個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査－』

金沢市教育委員会　1983　『金沢市西念・南新保遺跡』

1996　『西念・南新保遺跡Ⅳ』

小杉町教育委員会　1991　『小杉町中山中遺跡発掘調査概要』

1999　『HS－04遺跡発掘調査報告』

2003　『赤田Ⅰ遺跡発掘調査報告』

財団法人富山県文化振興財団　2003　『勅使塚古墳・永代遺跡・安居窯跡群・中山中遺跡発掘調査報告』　埋蔵文化財発掘調査報告第二一集

2004　『黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告　－主要地方道小杉婦中線臨時道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』　埋蔵文化財発掘調査報告第二五集

大門町教育委員会　1990　『布目沢北遺跡発掘調査概要』

高橋浩二　2000　「古墳出現期における越中の土器様相　－弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編年的位置付け－」『庄内土器研究XXⅡ』

2002　「北近畿系統の土器と山陰系統の土器」『富山大学人文学部紀要』第37号

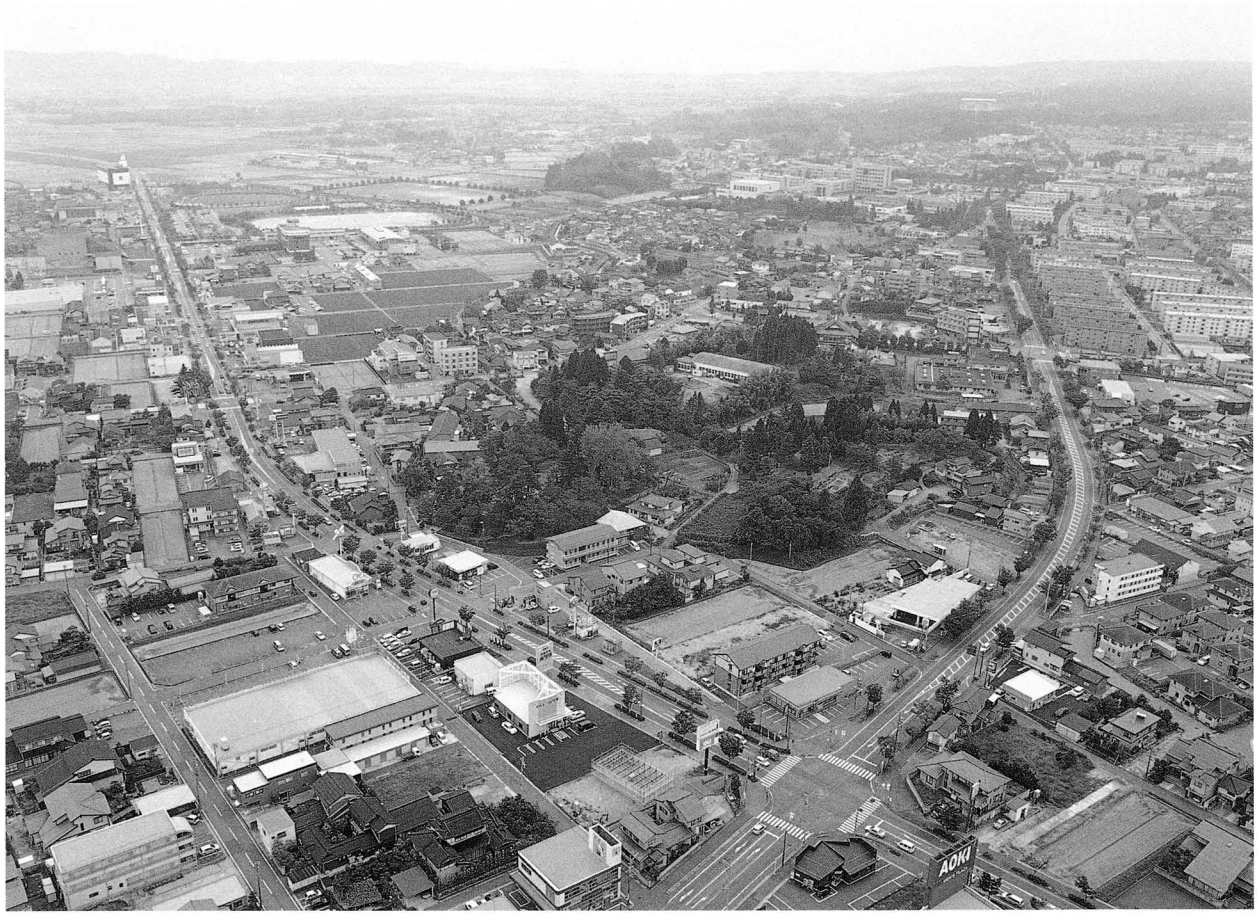
| 図版 | 番号 | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | | 調整 | | 施文 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 胴径 | 器高 | 器厚 | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | |
| 7 | 1 | SD11 | 1層 | 弥生土器 | 甕or壺 | 口縁部 | 12.9 | | | | 0.55 | | | | | |
| 7 | 2 | SD11 | 1層 | 土師器 | 皿or椀 | 底部 | | 4.4 | | | 0.75 | ロクロナデ 糸切り | ロクロナデ | | | |
| 7 | 3 | SD11 | 2層 | 珠洲 | 甕 | 胴部 | | | | | 1.85 | タタキ目 | | | | |
| 7 | 4 | SD11 | 1層 | 珠洲 | 甕 | 肩部 | | | | | 1.45 | タタキ目 | ロクロナデ | | | |
| 7 | 5 | SD11 | 1層 | 珠洲 | 鉢 | 口縁部 | | | | | 1.15 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 7 | 6 | SD11 | 1層 | 珠洲 | 甕or鉢 | 底部 | | | | | 1.30 | ロクロナデ 糸切り | ロクロナデ | | | |
| 7 | 7 | SD11 | 1層 | 珠洲 | 甕 | 底部 | | 15.1 | | | 2.40 | ロクロナデ<br>底部タタキ目 | ロクロナデ | 自然釉 | | |
| 7 | 8 | SK17 | 1層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | | | 1.30 | タタキ目 | 同心円状当て具 | | | |
| 7 | 9 | SK27 | 1層 | 弥生土器 | 器台 | 口縁部 | | | | | 1.00 | ミガキ　ナデ | ミガキ　ナデ | 擬凹線文<br>円形浮文 | | |
| 7 | 10 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 甕 | | 17.9 | 4.7 | 21.0 | 25.6 | 1.45 | 口縁部ナデ　頸部～胴部ハケ目 | ナデ　ケズリ | | | 底部にスス付着 |
| 7 | 11 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 鉢or高坏 | | 30.0 | | | | 1.15 | ナデ | ナデ | 赤彩 | 赤彩 | |
| 7 | 12 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 鉢 | 口縁部 | 19.8 | | | | 0.80 | ナデ | | 擬凹線文　赤彩 | | 13と同一？ |
| 7 | 13 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 鉢 | 底部 | | 2.7 | | | 0.70 | | | 赤彩 | | 12と同一？ |
| 7 | 14 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 器台 | 坏部 | 19.5 | | | | 0.85 | 口縁部ナデ | 屈曲部ナデ | 赤彩 | | 15と同一？ |
| 7 | 15 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 器台 | 脚裾部 | 21.1 | | | | 0.80 | 裾部ナデ | | 裾部赤彩 | | 14と同一？ |
| 7 | 16 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 甕or壺 | 底部 | | 4.6 | | | 1.25 | ハケ目 | ハケ目 | | | |
| 7 | 17 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 甕or壺 | 底部 | | 1.2 | | | 1.15 | ナデ | | | | スス付着 |
| 7 | 18 | SK30 | 2層 | 弥生土器 | 蓋？ | 口縁部 | 14.8 | | | | 0.90 | 口縁端部ナデ | ナデ　指押さえ | | | |
| 8 | 19 | SK35 | 2層 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部～胴部 | 10.5 | | 16.7 | | 0.80 | ハケ目　ケズリ<br>口縁端部ナデ | 口縁部ハケ目<br>胴部指押さえ | | | 胴部下半にスス付着 |
| 8 | 20 | SK37 | 1層 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 | 11.2 | | | | 0.80 | ミガキ　ナデ | ナデ | 円形浮文 | | |
| 8 | 21 | SK37 | 1層 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 | 20.3 | | | | 1.20 | ミガキ　ナデ | ミガキ | 円形浮文 | | 22と同一？ |
| 8 | 22 | SK37 | 1層 | 弥生土器 | 壺 | 頸部～底部 | | 5.3 | 28.0 | | 1.85 | ミガキ | ハケ目 | 刻み目隆帯 | | 21と同一？ |
| 8 | 23 | SK37 | 1層 | 弥生土器 | 高坏 | 脚部 | | 19.0 | | | 1.75 | 4単位の透孔 | | | | |
| 8 | 24 | SK37 | 1層 | 弥生土器 | 器台 | 脚裾部 | | 13.4 | | | 0.95 | ミガキ　ナデ | ハケ目　ナデ | | | |
| 8 | 25 | 客土 | | 弥生土器 | 甕 | 口縁部 | 15.4 | | | | 1.10 | ナデ | ケズリ | 擬凹線文 | | |
| 8 | 26 | 客土 | | 土師器 | 長胴甕 | 胴部～底部 | | | 23.3 | | 1.35 | ハケ目 | ハケ目　ケズリ | | | スス付着 |
| 8 | 27 | X9Y20 | | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 | 11.8 | | | | 0.75 | ナデ | ナデ　ハケ目 | 赤彩 | 赤彩 | |
| 8 | 28 | X11Y12 | | 珠洲 | 甕 | 胴部 | | | | | 1.15 | タタキ目 | 当て具 | | | |
| 8 | 29 | X11Y11 | | 須恵器 | 坏 | 底部 | | | 7.6 | | 1.10 | ロクロナデ<br>高台貼付時ナデ | ロクロナデ | | | |
| 8 | 30 | 表採 | | 珠洲 | 壺 | 底部 | | | 10.9 | | 2.30 | 回転ヘラケズリ<br>糸切り | ナデ | | | |

第２表　出土土器観察表

| 図版 | 番号 | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 法量(cm) | | | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 9 | 31 | SK02 | 1層 | 石器 | 石刃 | 6.55 | 2.45 | 0.80 | 珪質頁岩 | |
| 9 | 32 | SD11 | 3層 | 石器 | 磨製石斧 | 2.20 | 4.35 | | 蛇紋岩 | |
| 9 | 33 | X8Y21 | 客土 | 石器 | 石錘 | 4.10 | 3.75 | 0.85 | | |
| 9 | 34 | X10Y5 | | 金属器 | 寛永通宝 | 2.80 | | | 銅 | |

第３表　その他の遺物観察表

航空写真（1947年　米軍撮影）

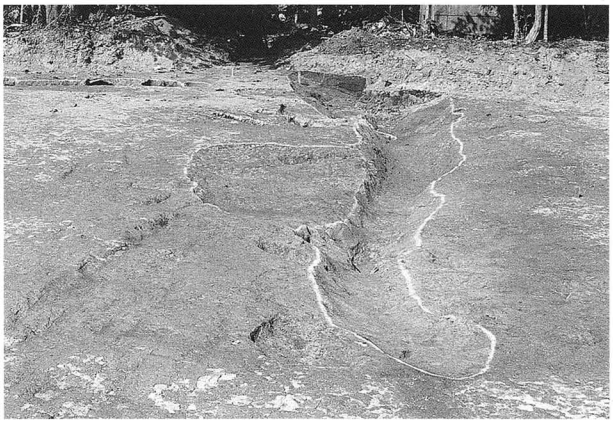


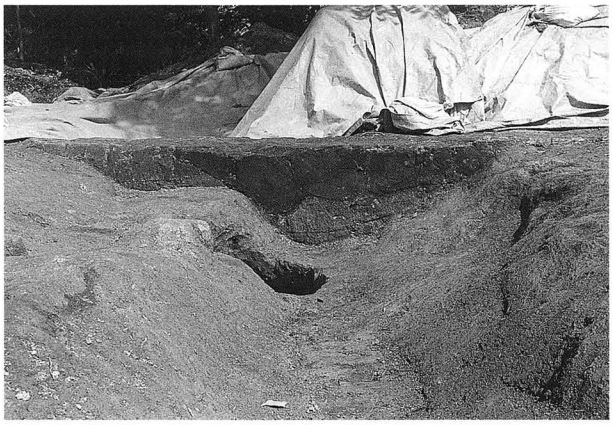

遺跡遠景（北西から）

## 図版 2　調査区全景

調査区全景（垂直）

調査区全景（西から）


SD11（南から）


SD11セクション（南から）

SK30セクション（西から）

SK30土器出土状況（西から）

SK35土器出土状況（西から）

SK37土器出土状況（南から）

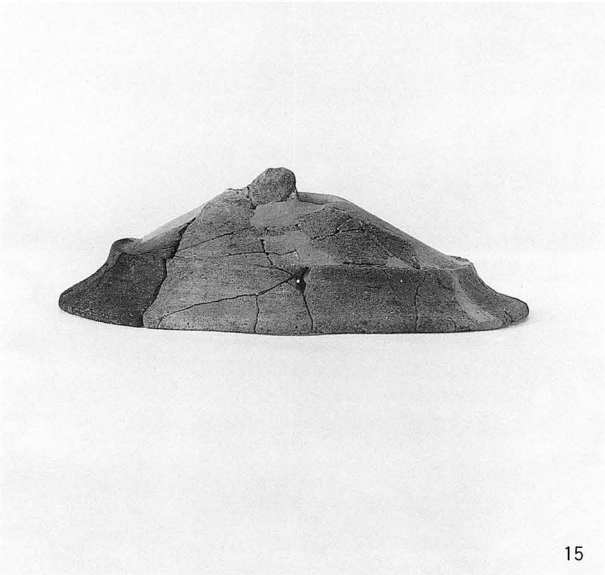
SD11全景（垂直）

作業風景（南西から）

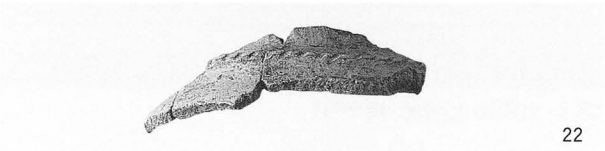
## 図版 4　出土遺物

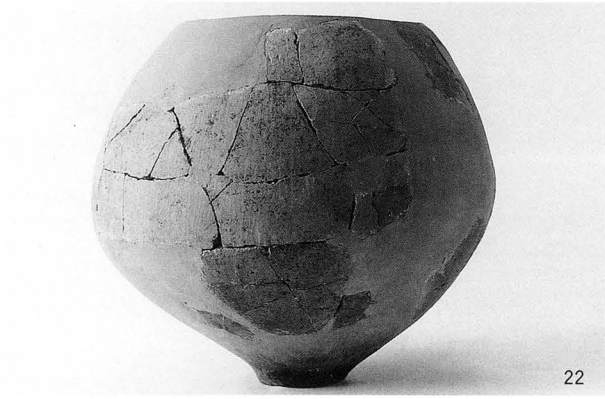
10

11

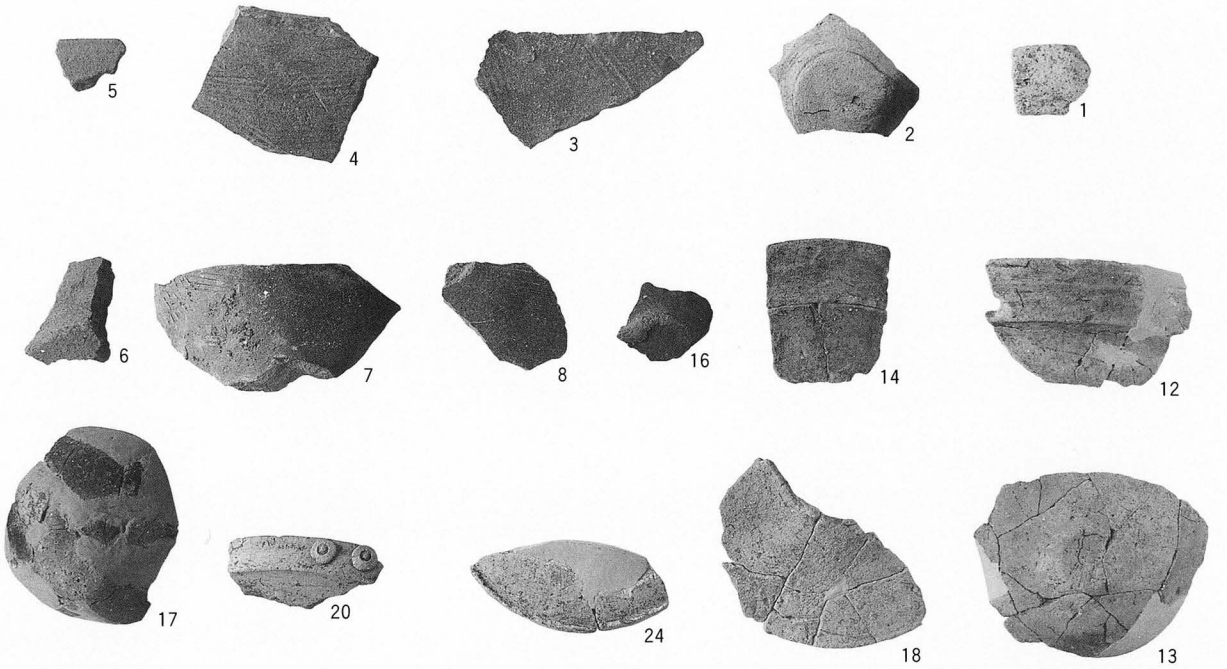

15

19

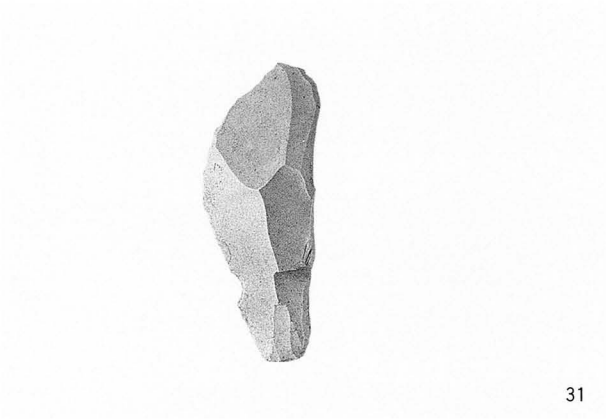

22

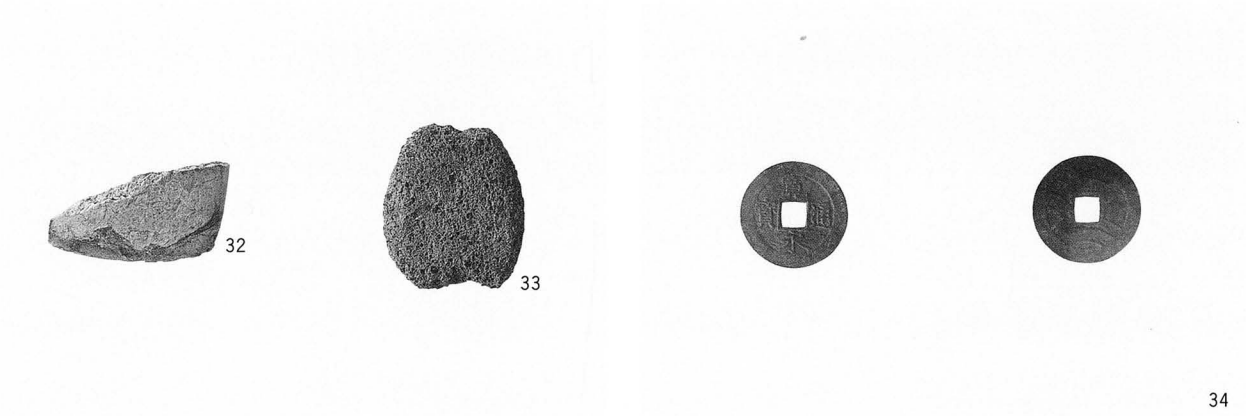

22

23


5
4
3
2
1
6
7
8
16
14
12
17
20
24
18
13

26


31


32
33
34

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | たいこうやまおんせんいせきはっくつちょうさほうこく |
| 書名 | 太閤山温泉遺跡発掘調査報告 |
| 副書名 | —公衆浴場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査— |
| 編著者名 | 稲垣尚美（射水市教育委員会）　後藤浩之・澤田雅志（株式会社エイ・テック） |
| 編集機関 | 射水市教育委員会、株式会社エイ・テック |
| 発行機関 | 射水市教育委員会 |
| 所在地 | 〒933−0292　富山県射水市加茂中部893番地　TEL　0766−59−8092 |
| 発行年月日 | 西暦2007年2月28日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | °′″ | °′″ | | m² | |
| たいこうやまおんせん<br>太閤山温泉 | とやまけんいみず<br>富山県射水<br>しくろかわ<br>市黒河 | 211<br>(381) | 091<br>(031) | 36度<br>42分<br>48秒 | 137度<br>05分<br>37秒 | 20060821～<br>20060928 | 1,160 | 公衆浴場建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 太閤山温泉 | 散布地 | 弥生時代<br>後期 | 土坑 | 弥生土器 | |
| | | 中世 | 溝 | 珠洲 | |

※コード欄の(　)内の数字は、合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。


平成19年２月28日発行

**太閤山温泉遺跡発掘調査報告**

－公衆浴場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

編集　射水市教育委員会
　　㈱エイ・テック
発行　射水市教育委員会
　　〒933-0292　富山県射水市加茂中部893
　　TEL　0766-59-8092
印刷　中村印刷工業株式会社